慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	反抗的な自己呈示と自民族集団による他者化 : 在日中国人技能実習生の母国メディア利用
Sub Title	Resistant self-presentation and othering with the ethnicity : the use of homeland media by Chinese gino jisshusei in Japan
Author	杜, 妍(Du, Yan)
Publisher	三田社会学会
Publication year	2024
Jtitle	三田社会学 (Mita journal of sociology). No.29 (2024. 7) ,p.31- 41
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	特集 : トランスナショナル・ オーディエンスの社会心理学
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AA11358103-20240701-0031

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

反抗的な自己呈示と自民族集団による他者化
――在日中国人技能実習生の母国メディア利用――

Resistant Self-Presentation and Othering with the Ethnicity:
The Use of Homeland Media by Chinese *Gino Jisshusei* in Japan

杜　妍

１．はじめに

本稿は、中国人技能実習生を事例に取り上げ、彼らがどのように母国メディアを利用しているのか、そしてその利用からどのような影響を受けているのかについて考察することを目的とする。

外国人技能実習制度は、日本で培われた技能、技術または知識を開発途上国などへ移転し、当該地域等の経済発展を担う「人づくり」に寄与することを目的として設立された[1)]。しかし、建前上の趣旨とは別に、技能実習制度の形成と実施の背景には、日本の労働力不足の緩和、派遣元の労務輸出による外貨獲得、国際的な労務協力の促進など、受け入れ側と送り出し側の社会的および経済的な意図が存在する（王，2018；孟ら，2020）。技能実習ビザは他の就労ビザとは異なり、雇用期間の延長を基にした都度の更新が許可されていない。技能実習生には「技能実習」の在留資格が与えられ、技能実習１号（１年間）、２号（２年間）、３号（２年間）を経て最大で５年間の日本滞在が可能である[2)]。ただし、第３号技能実習への移行には１ヶ月以上１年未満の一時帰国が義務づけられており、多くの実習生が将来的な生活拠点を日本に移す意向が薄いため、実習期間を３年で終了するケースが多い。

2023年６月時点の統計によれば、日本に滞在している中国籍の技能実習生は、29,142人で、在日中国人全体の約3.7％を占めている（法務省，2023）。これらの技能実習生は、自らの滞日経験を海外出稼ぎとして捉えており（王，2018）、その多くが来日前に派遣機関による僅か３ヶ月の基礎日本語教育しか受けていない大卒以下の学歴を持つ若者である。来日後、彼らは主に、建設業や食品製造業といった日本人が敬遠する低賃金の肉体労働に従事する。限られた人生経験及び日本語能力の欠如によって、彼らはしばしば権利侵害の問題に晒されている。具体的には、送り出し機関や監理団体による中間搾取、職場での暴行、ハラスメント、受入企業による旅券や在留カードの取り上げ、賃金の不払いなどの人権侵害行為が多く報告されている（高原，2006；孟ら，2020）。日本国内のみならず、中国のネット上でも、実習生を現代の「奴隷」と見做し、その悲惨な経験を伝える報道が見受けられる（中新社，2010）。侵害事件や実習生の失踪を防ぐため、実習実施団体は、生活指導員と技能実習指導員を配置し、実習生の生活や教育訓練を管理・指導している。本研究では、厳格に管理された労働・生活環境と比較的ネガティブなイメージを持つ中国人技能実習生に対して、母国メディアが果たしている役割について検討する。本研究の知見は、出稼ぎの肉体労働者集団に対する学術的関心の欠如を補填するとともに、社会階層の視点を取り入れることで将来のディアスポラのメディア研究に資

杜妍「反抗的な自己呈示と自民族集団による他者化――在日中国人技能実習生の母国メディア利用」『三田社会学』第29号（2024年７月）　31–41頁

するであろう。

２．先行研究のレビューと本稿の位置付け

⑴　中国人ディアスポラの母国メディア利用とその影響

社会世界は既に根本的にメディアと交錯しており、私たちが社会世界を構築するために用いるコミュニケーション実践の多くはメディアと密接に関連している（Couldry & Hepp, 2016）。ディアスポラのメディア利用行動への注目は、彼らの移住先での生活状況を理解する上で大きな意義を持っている。特に、馴染みの薄いホスト社会においてディアスポラに帰属感と居場所を提供する母国メディアの利用と影響は、これまで多くの研究者の関心を引いてきた（Moores & Metyková, 2010；Yin, 2013；李, 2016）。

中国人ディアスポラを対象にした既存研究によると、母国メディアを利用する主要目的として、「娯楽」（王, 2014；杜, 2021）、「社交」（王, 2014；Lu, 2017；杜, 2021）、「情報収集」（Siew-Peng, 2001；Shi, 2005；王, 2014；杜, 2021）、そして「母国文化・言語教育」（Siew-Peng, 2001；Shi, 2005）が挙げられている。ディアスポラを取り巻くメディア環境が次第に複雑化する中、中国人ディアスポラがホスト社会のメディアよりも母国メディアを選好する理由について、彼らの能動的な選択に焦点を当てた研究では、母国で習慣化されたメディア利用行動を継続していくという「習慣的志向」（Shi, 2005；王, 2014）や、自民族コミュニティや母国文化への「共感と帰属意識」（Siew-Peng, 2001；Yin, 2013）、さらには「母国への関心」（杜, 2021）や「母国、母国語への愛着」（杜, 2021）などの内発的動機付けが最も頻繁に言及されている。また、「ホストメディアの偏狭さに対する不満」（Shi, 2005；杜, 2021）や文化資本としての「戦略的な利用」（Shi, 2005；杜, 2021）など、ホスト国の社会環境からの刺激による外発的動機づけも確認されている。上記で述べた動機づけは、主にテレビ視聴のような利用者が情報を一方的に受け取る消費型のメディア利用に関連するものである。加えて、近年UCG（ユーザー生成コンテンツ）プラットフォームの発展により、利用者自身が自分の意見や感情をアピールするためにメディアコンテンツを制作・発信する生産型のメディア利用が促進されており、「営利」や「共有と自己呈示」といった新たな動機づけが注目されるようになった[3]。

異文化適応とアイデンティティ構築は、母国メディアの影響を解釈する上で常に重要な観点とされてきた。母国メディアは、ホスト社会での政治参加を促す役割を担い、競争上の優位性を確保するためのバイカルチャー（biculture）経験の蓄積、真の中国人としてのアイデンティティの強化に寄与しているとされる（Yin, 2013；王, 2014；張煥萍, 2023）。しかし、母国メディアはディアスポラのホスト社会への適応と母国アイデンティティの維持に一貫して積極的な役割を果たしているとは限らない。移住先への適応志向が乏しい中国人にとって、母国メディアは文化的差異に起因するストレスを軽減し、ホスト社会と異質共存できる社会空間を提供している（杜, 2021）。そして、インターネット技術の進展に伴い、中国人ディアスポラの社交様式にも変化が生じており、母国メディアで結ばれた人間関係の多様性がディアスポラのオンラインアイデンティティの変容を促している。在日中国人インフルエンサーの母国メディア利用に対する研究では、コミュニケーションの相手や話題に応じてディアスポラが「中国人」または「中国人ディアスポラ」というアイデンティティを柔軟に使い分け

ていることが明らかになった[4)]。

⑵　出稼ぎ労働者のメディア利用

移動通信技術の普及が下層階級の移民の生活に深く根付いてきたことに伴い、農村から都市へ、さらには国境を越える出稼ぎ労働者のメディア利用に対する学術的な注目が高まってきた。これまでの諸研究では、家族や友人との感情的な絆の維持や、ホスト社会における同民族コミュニティの構築におけるメディアの重要性が評価される一方、移民のメディア利用様式と社会階層、そして権力獲得との関連性にも深い洞察が注がれてきた（Lee, 2012；Wahyudi & Allmark, 2020；Aricat, 2015；Golan & Babis, 2017）。韓国に渡航するアジア諸国出身労働者を対象にしたLee（2012）の研究は、移民労働者の階級意識が主流メディアにおける否定的報道への抵抗や公正な社会像を求めるメディア制作への積極的関与を促していることを明らかにするなど示唆に富んでいる。

中国における出稼ぎ労働者に関する研究は、主に都市部へと移動する農民工に焦点が当てられてきた。メディア、特に高価な通信機器とSNSの利用は、彼らに都市社会への帰属感や都市住民との平等感をもたらしている。これはまた、遠隔地での子育てを支援する手段ともなっている（Liu, 2014；Liu & Leung, 2016）。しかし、SNSは都市部における移民労働者の社会的包摂と排除を同時に促進する可能性を秘めている。WeiboのようなSNSは出稼ぎ労働者に感情を表出し意見を表明する機会を与える一方で、関連する議論における発言権はメディア関係者、学者、政府組織といった影響力のあるアクターに集中しており、デジタルデバイドの問題が顕在化している（Zhang, 2013）。また、ジェンダーの視点からも労働者のメディア利用と権力関係に関する研究が行われてきた。伝統的に疎外されてきた女性労働者は、不平等な待遇や「生産機械」という物質化されたイメージに対抗し、通信技術の利用やオンラインコミュニティへの参加を通じて主体性を取り戻し、ディーセント・ワーカーとしてのアイデンティティを構築してきたとされる（Wallis, 2008；Cao & Li, 2018）。

先行研究の整理を通じて、国境を越える中国人出稼ぎ労働者のメディア利用に関する研究が不足していることが明らかになった。エリート層が早期にトランスナショナルな移動を経験し、先端のメディア技術にアクセスできる環境を整えていることから、学術界は留学生や知識労働者など、より教育背景の高い中国人ディアスポラに焦点を当てる傾向にあり、メディア利用における社会階層の影響については十分に考慮してこなかった。これを受けて本稿は、出稼ぎ労働者としての在日中国人技能実習生に光を当て、以下のリサーチクエスチョンを明らかにしていく。① 在日中国人技能実習生は日常生活において母国メディアをどのように利用しているのか、② 知識労働者をはじめとする他の在日中国人集団と比較して、技能実習生の母国メディア利用様式や動機にはどのような差異が存在するのか、③ 母国メディアが技能実習生に与える影響は何か。

３．分析の枠組みと研究方法

本研究は、「利用と満足」の視座を分析の枠組みにし、利用者を能動的な存在として捉え、彼らのメディア選択の背後にある目標指向や動機づけを深く掘り下げる。このアプローチにより、技能実習生を取り巻く社会的、文化的状況に根ざした彼ら独自の利用パターンを解明したい。

研究方法として本研究はインタビュー調査と内容分析、そして言説分析の手法を併用している。ま

ず、筆者は2023年10月から12月にかけて技能実習生としての経験を持つ７名の対象者（表１）に半構造化インタビューを実施した。調査協力者は、SNSを介したスノーボール・サンプリングにより募集した。そのうち、１名はインタビュー時点で実習中であり、４名は実習終了後に帰国していた。残りの２名は実習終了後に他の就労ビザを取得し、現在日本で就職している。さらに、メディアにおける中国人技能実習生の生産行為と自己呈示を広く収集し、分析するために、中国の若者に人気のSNSプラットフォーム「RED」において「日本研修生」（「技能実習生」の中国での通称）というキーワードを含むすべての個人投稿（2024年１月９日時点で、35の個人アカウントから208件の投稿が見つかった。投稿期間は2020年７月から2024年１月まで。）を対象として内容分析と言説分析を実施した。画像やショートビデオの投稿に対しては、文字または音声が含まれている場合、文字起こしを行ってから分析を進めた。

表１　インタビュー参加者一覧表

ID	性別	年齢	出身地	婚姻状況	教育程度*	日本語能力（初回来日時点）	実習内容	滞在期間
A	男	35	河北省	離婚	中卒	N3	自動車部品製造	2015年６月～2018年６月
B	女	32	黒龍江省	未婚	大専卒	N4	食品製造	2017年10月～2020年10月
C	女	25	遼寧省	未婚	職高卒	ほとんどできない	食品製造	2018年７月～2023年10月
D	女	26	遼寧省	未婚	中専卒	N5	食品製造	2019年12月～2021年12月
E	男	30	河南省	未婚	高卒	N5	建築	2012年３月～2015年３月 2016年10月～2019年10月
F	女	22	山東省	未婚	中卒	ほとんどできない	製本	2019年７月～現在
G	女	33	吉林省	未婚	高卒	N5～N4	食品製造	2017年４月～2020年８月 2023年３月～現在

＊中国では、職業高級中学（職高）と中等専業学校（中専）は高等学校の卒業学歴と同等レベルと言われている。大学専科（大専）は高等教育機関の一つであり、学生は卒業時に専科学歴を授与されるが、学位は付与されない。

４．技能実習生の母国メディア利用パターンと利用動機

中国人技能実習生にとって、母国メディアは彼らがアクセスできる限られた情報源の一つである。低い外国語能力に加え、社寮での集団生活という居住形態がテレビの購入や設置の可能性を制限し、ホスト社会メディアやグローバルメディアへの接触を妨げている。母国メディアへの高い依存は、日本語に堪能で多様なメディア環境で能動的な選択を行う在日中国人グループとは異なる、実習生たちの個人能力と客観的な環境制約が共同に作用した結果と言える。したがって、本研究では、母国メディアの利用動機を分析するにあたり、日本のメディアより中国のメディアを選好する理由を探求す

るのではなく、中国のメディアを利用する過程で、なぜ他の在日中国人グループとは異なる利用パターンが見られるかに重点を置きたい。

⑴　結束型ネットワーク：ソーシャルサポートへの追求

知識労働者にとっては、デジタル情報の処理は日常業務の一環であり、パソコンを含む各種メディアデバイスが不可欠な生産ツールとして位置づけられている。これに対し、技能実習生は、工場勤務中にスマートフォンの持ち込みが通常禁止されているため、メディアへの接触時間が限られている。本研究では、「情報収集」「社交」と「娯楽」は、実習生による母国メディアの利用行動において最も一般的な利用様式であることがわかった。この発見は、知識労働者を対象にした既存研究（杜, 2021）の結果と一致している。日本語能力の不足と、日本のウェブサイト上で役立つ個人的な体験談をほとんど見つけられないため、実習生たちはREDなどの母国ソーシャルメディアを利用し、日本における生活情報を検索する傾向がある。インタビュー参加者のうち、Cさんのみが食べログのような日本のアプリの利用に言及している。また、厳格な労働環境から一時的に解放される休憩時間において、スマートフォンは母国のバラエティ番組の視聴やSNSの閲覧といった用途で活用され、実習生にとっては時間を潰す上で重要な媒体となっている。Gさんが述べるように、これは既に一種の習慣化された行動となっている。「何もすることがない時、自然とスマートフォンを手に取って弄る。」日常生活に関する情報の検索や仕事によるストレスの解消を目的とした利用のほかに、越境的な人間関係やホスト社会での人間関係の維持も、母国メディア利用の主要な目的の一つである。しかしながら、「社交」目的での利用にあたって、実習生は他のグループと比べて独特な特徴を示している。

まず、技能実習生たちは在日中国人社会に対する強い帰属意識を持たず、他の在日中国人コミュニティとは比較的断絶した状態にある。契約期間が3年に限られていることから、彼らは自身を渡り鳥のような一時的な外来者と捉え、ホスト社会における生活の基盤や戦略的な人脈を構築しようとする意欲を見せない。こうした傾向は、彼らのSNS利用において明確に見受けられる。知識労働者がSNSを通じて地縁、趣味縁、職縁を基に構築した複雑で強固な社会ネットワーク（杜, 2021）を作るのに対し、技能実習生たちは、日本における交友関係を同じ組合に所属する実習生同士に限定している。さらに、ネット上で広がっている中国人経営者による同胞相手の搾取や賃金未払いのニュースや噂が、日本での経験がまだ浅い実習生たちの間で在日中国人社会への警戒心を引き起こし、彼らの社会的ネットワークの拡大を阻害する一因ともなっている。

> *中国人が中国人をだますんだ。他のところで会った人とわざわざ関わる必要なんてないよ。だって、その人がどんな人か分からないじゃん。一緒に働いてる人たちなら、少なくとも同じ会社出身だし、その人のことちゃんと知ってるから安心だよ。（Cさん）*

次に、技能実習生は、お互いのソーシャルサポートを求めるために、母国のSNSに強く依存している。前述の通り、技能実習生は労働生活の中でしばしば権利が侵害される問題に直面している。脆弱な社会的ネットワーク、権利擁護に関する知識の欠如、そして外国語能力の制約により、彼らは通常の権利擁護のルートから遠ざけられている。このような状況下で、ソーシャルメディア上での発信

は、助けを求め、正義を訴える際の重要な手段となっている。次節でも述べるが、援助要請は、実習生たちがSNSに投稿している主要トピックの一つである（表2参照）。彼らは遭遇したトラブルを公開し、コメント欄を通じて経験豊富な実習生同士からのアドバイスや対処法を受け取る。また、ダイレクトメッセージ機能を利用して問い合わせるケースもある。今回のインタビュー対象者のうち、EさんとFさんはSNSで実習に関する個人の経験談を積極的に発信していたため、知らない実習生同士から頻繁に質問を受けていたという。

前にね、REDで賃金を搾取されてた女の子を助けたことがあるんだ。彼女は労務輸出会社を通じて日本に来てたけど、会社からは時給550円しかもらってなくて。だから、権利サポートセンターに連絡する方法を教えてあげたんだ。結局、何の損もなく辞められたみたいだよ。（Eさん）

このように、技能実習生たちは、ソーシャルサポートを求めるために実習生集団内での社会的つながり、すなわち内向きの結束型[5)]ネットワークのみを構築する傾向がある。これと対照的に、彼らは、語学力の不足や自己防衛などの理由から、ホスト社会や在日中国人社会との関わりを持たず、知識労働者が行っているようなSNSを活用した橋渡し型[6)]ネットワークの構築という戦略的な利用を、ほとんど行っていない。

⑵　反抗性のある積極的な自己呈示

今回のインタビューから、単なる消費的なメディア利用にとどまらず、技能実習生による母国メディアでの生産的な利用行動も顕著であることが浮き彫りになった。では、彼らはSNS上で具体的に何を投稿しているのだろうか。「RED」から抽出した208件の実習生による個人投稿をトピック別に分類し、その結果を表2に示した。技能実習生による最も多い投稿内容は、仕事と日常生活に関する記録（70％）である。次いで給与明細や生活費の内訳を公開する内容（14％）、援助要請（8％）、来日のプロセスや仕事経験を未経験者に共有するための投稿（8％）となっている。すなわち、自己呈示や経験の共有など利他主義的な動機づけが生産的なメディア利用の原動力である。

表2　REDにおける実習生個人投稿のトピック

トピック		投稿数（N＝208）	割合
仕事と暮らしの記録	感情表出のない日常生活の記録	89	43%
	実習生活に積極的な姿勢と努力意欲を含む投稿	48	23%
	職場、実習生活などに対する不満	9	4%
収支状況：生活費と給与		29	14%
援助要請		17	8%
来日の流れと仕事経験の共有		16	8%

SNSにおける実習生の自己呈示や実習生活への姿勢をより深く理解するために、仕事と暮らしに関連する146件の投稿を、実習生の身分や実習生活に対する感情表出がポジティブかネガティブかに基づいて再分類した。その結果、感情表出のない投稿が全体の約60％を占め、主にポジティブな感情を表現する投稿が約30％、ネガティブな感情を示す投稿が約10％となっていた。ポジティブな感情を映し出す投稿の大多数は、実習生自身が実習生活に対する前向きな姿勢と熱意を示すものであった。個人の心境を伝達する際に用いられる感情語としては、「快楽（幸福）」「自由（自由）」「年軽（若い）」「不后悔（後悔しない）」などが目立つ。また、ホスト社会に対する肯定的な評価を示す「方便（便利）」「安逸（快適）」「干浄（清潔）」といった表現も散見される。一方、ネガティブな投稿には「委屈（悔しい）」「生气（怒り）」「离譜（とんでもない）」「煩死了（うんざりする）」「可怜（かわいそう）」「悪心（気持ち悪い）」などの感情語が使われていた。これらの投稿は、労働条件への不満（例えば、不合理な待遇差や組合・派遣機関による搾取）、実習生間の軋轢、または他の中国人同胞からの差別・偏見に対する不満を訴えているものである。ここで特に注目すべきは、最後に言及したトピック、すなわち自民族の内集団からの排斥に対する実習生の反発感情の表出である。この話題に関するネガティブな投稿は僅か2件に過ぎないが、実際には48件のポジティブな自己呈示の投稿からも実習生の反抗的な姿勢が随所に透けて見えてくる。要するに、実習生は、SNS上でより反抗的な性格を帯びたポジティブな自己呈示をする傾向があったのである。

実習生が反駁しているのは、ネット上で広がっている技能実習生の身分に対する「安価」、「低地位」、「奴隷的」といった否定的な言説である。彼らは、主に二つのアプローチを用いる。一つ目は、技能実習生という身分が一時的で成長可能性のあるものであり、家庭環境や学歴に基づく合理的な選択であるという点を強調することである。以下の投稿はその例である。

投稿1：「実習生って何がいいんだ？最低時給で一番きつい仕事して」って言う人がよくいるけど、私はね、仕事によると思うよ。私の仕事はすごくラクなんだ…本当に今の生活が好きで、日本に実習に来たことを後悔してないんだよ…アドバイスはいいけど、余計なお世話はやめてよ…確かに実習生の中には騙されたりする人もいるけど…私の生活について、あなたたちよく知らない人たちがコメントしたり推測したりするのはやめてほしいな。

投稿2：自分で選んだ道だからね。もし学歴が問題じゃなかったら、実習なんて選ばなかったよ。学歴もすごいバックグラウンドもないけど、自分の力で世界を見てみたいんだ…実習生だって恥ずかしいわけじゃないよ。日本で3年間ちゃんと働いて、稼いだお金を帰国して使うんだから。私たちだって、ただの普通の人間さ。

そして二つ目は、給与を社会的地位を測る基準として用いることである。この傾向は彼らがSNS上で給与明細を公開する現象にも呼応している。一部の実習生は、業務内容からディーセントワークではないと感じているが、日中租税条約により一部の税金が免除されるため、他の在日中国人労働者より高い手取りを得ることが可能である。このため、給与の呈示は彼らにとって社会的地位の向上と自己価値の回復に重要な手段となっている。インタビュー参加者のFさんはSNSに投稿する動機に

ついて以下のように述べた。

> *投稿したのは、もっと多くの人に知ってほしいからだよ。実習生って、全然「豚の子（詐欺や不当な手段によって海外に送り出される中国の契約労働者の蔑称）」じゃないんだ。修士持ちのネット友達が1ヶ月以上、「実習生が不正に働いても稼げない」って言ってたんだけど。私は「それはお前が世間知らずだろう」って言い返して、給料明細を見せたんだ。月24万2,400円も稼いでるからね。彼女、それ見て返事なくなっちゃって、本当に面白かった。*

積極的な自己呈示は、中国人ディアスポラが自らの価値観や優越性を示し、社会的承認や賞賛を得るための、SNS利用の一般的な動機として見受けられている。しかし、そこに既存の社会的枠組みや偏見に対する挑戦的な姿勢、いわゆる鮮明な反抗性が遍在していることが、実習生のSNS利用を他の在日中国人集団のそれと区別する主要な特徴の一つになっている。

５．反抗的アイデンティティの構築と自民族集団による他者化

ソーシャルメディアの出現は、従来の中国メディアにおける一元的なプロパガンダを打破し、多様な話題と視点を公の議論の場に持ち込む一方で、新たな形の社会的排除を生み出している（Zhang, 2013）。技能実習生に関するSNS上の言説も、越境した出稼ぎ集団に対する人々の理解を深めると同時に、根深い偏見も植え付けている。前節での分析から、母国メディアは実習生の反抗的な自己呈示の場を提供し、支配的で否定的な社会的言説に対抗する中で、実習生に主体性を取り戻せる機会を与えている可能性が見出された。

Castells（2010）によるアイデンティティの分類に基づくと、反抗的アイデンティティは、支配的論理によって価値を下げられたり、汚名を着せられたりする立場や状況にある行為者たちによって生み出されるものである。このアイデンティティは、価値判断を逆転させ、他集団との境界を強化する役割を果たしている。この視点から見れば、技能実習生が示す一時的だが成長可能性のある国際労働者としてのイメージは、反抗的なアイデンティティとして解釈できる可能性がある。特筆すべきは、彼らが直面する偏見と差別は主に母国メディアの影響によるものであり、彼らが抵抗している支配的な言説はホスト社会ではなく、自民族集団からのものであるという事実だ。前章で挙げられた事例を含む実習生の投稿分析から明らかになったのは、彼らが反抗の矛先を特定の社会的集団に属する中国人ではなく、広範な中国人ネット利用者に向けていることである。このような現象は実習生たちがどの集団から差別的な感情や言動を受け取っているかという点に関連している。インタビューにおいて、参加者たちは現実世界での友人や家族、ネット上の見知らぬ在日中国人（主に留学生）、さらには社会全体から偏見を受けていると述べた。それゆえ、技能実習生はホスト国における自民族集団だけでなく、母国在住の同胞によって他者化されていることが伺える。一方、日本社会への適応意欲が低いため、彼らはホスト社会からの排斥を強く意識していないと想定できよう。

６．終わりに

本稿では、中国人技能実習生が母国メディアをどのように消費的かつ生産的に利用しているかを探究し、彼らのメディア利用が他の在日中国人集団とどのように異なるかを分析した。この分析から、技能実習生は集団内でのソーシャルサポートを求め、反抗的かつ積極的な自己呈示を行う傾向にあることが明らかになった。これは母国メディアが技能実習生の反抗的アイデンティティの形成及び自民族集団による他者化において重要な役割を果たしていることを示唆している。

本研究の限界としては、技能実習生に対する否定的な言説が、厳密な調査に基づくものではなく、一部のメディア報道とインタビュー参加者の自己報告に依存している点が挙げられる。技能実習生が母国メディアにおいてどのように語られているかを正確に把握するためには、将来の研究において技能実習生をめぐる主流メディアの記事やSNS上の言説を対象とした分析を実施する必要である。さらに、SNS上の自己呈示に関する調査は、他の在日中国人集団にも拡張されるべきである。異なる社会階層や身分を有する在日中国人の自己呈示に対する母国メディアの影響がどのように変わるかを解明することが求められる。

【注】

1）公益財団法人　国際人材協力機構（JITCO），「外国人技能実習制度とは」https://www.jitco.or.jp/ja/regulation, 2024年１月31日最終閲覧

2）同上

3）筆者が2023年に実施した研究、「Homeland Social Media as a Field of Negotiation: Creative Strategies of Chinese Wanghongs in Japan」における調査結果を基に、現在、同名の論文を学術雑誌に投稿している。

4）同上

5）パットナム（2006）によれば、社会関係資本の形式の中に、最も重要な二種類は「橋渡し型」と「結束型」である。結束型の社会関係資本は、特定の互酬性を安定させ、連帯を動かしていくのに都合が良い。橋渡し型のネットワークは対照的に、外部資源との連繋や、情報伝播において優れている。

6）同上

【文献】

Aricat, R. G. (2015). Mobile/Social media use for political purposes among migrant laborers in Singapore. *Journal of Information Technology & Politics, 12*(1), 18-36.

Cao, A., & Li, P. (2018). We are not machines: the identity construction of Chinese female migrant workers in online chat groups. *Chinese Journal of Communication, 11*(3), 289-305.

Castells, M. (2010). The power of identity (2nd ed.). Malden, MA: Wiley-Blackwell.

Couldry, N., & Hepp, A. (2016). *The mediated construction of reality*. Polity

Golan, O., & Babis, D. (2017). Towards professionalism through social networks: constructing an occupational community via Facebook usage by temporary migrant workers from the Philippines. Information, Communication & Society, 22(9), 1230-1252.

法務省（2023）在留外国人統計（旧登録外国人統計）2023年６月末，統計表「国籍・地域別　在留資格（在留目的）別　在留外国人」https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?lid＝000001424763&layout＝datalist，2024年12月20日最終閲覧

李光鎬（2016）『「領土」としてのメディア――ディアスポラの母国メディア利用』慶應義塾大学出版会

Lee, H. (2012). At the crossroads of migrant workers, class, and media: a case study of a migrant workers' television project. *Media, Culture & Society*, 34(3), 312-327.

Liu, J. J., & Boden, A., & Randall, D., & Wulf, V. (2014). Enriching the Distressing Reality: Social Media Use by Chinese Migrant Workers. *CSCW '14: Proceedings of the 17th ACM conference on Computer supported cooperative work & social computing*, 710-721.

Liu, P. L., & Leung, L. (2016). Migrant Parenting and Mobile Phone Use: Building Quality Relationships between Chinese Migrant Workers and their Left-behind Children. *Applied Research in Quality of Life, 12*(4), 925-946.

Lu, J. (2017). Understanding the Chinese Diaspora: The Identity Construction of Diasporic Chinese in the Age of Digital Media.Scannell, Paddy, 1996, *Radio, Television and Modern Life: A Phenomenological Approach*, Oxford: ― Blackwell.

Moores, S., & Metyková, M. (2010). 'I didn't realize how attached I am': On the environmental experiences of trans-European migrants. *European Journal of Cultural Studies, 13*(2), 171-189.

孟 雨璇・山本 かほり・松宮 朝（2020）「実習期間終了後の中国人技能実習生の意識--遼寧省出身技能実習生を中心に」愛知県立大学大学院人間発達学研究科［編］『人間発達研究』No.11,1-14

王暁音（2018）「中国人技能実習生の移動に対する主観的意味付け：当事者へのインタビュー調査から」慶応義塾大学大学院社会学研究科紀要『人間と社会の探究』No.86,1-21

Shi, Y. (2005). Identity construction of the Chinese diaspora, ethnic media use, community formation, and the possibility of social activism. *Continuum: Journal of Media & Cultural Studies, 19*(1), 55-72.

Siew-Peng, L. (2001). Satellite TV and Chinese migrants in Britain. In N. Wood & R. King (Eds.), *Media and Migration: Constructions of Mobility and Difference*, pp.143-158.

高原一郎（2009）『外国人研修生　時給300円の労働者２』明石書店

杜妍（2021）「在日中国人IT技術者の母国メディア利用とその影響：知識労働者の特徴に着目して」慶応義塾大学大学院社会学研究科紀要『人間と社会の探究』No.92,17-37

Wahyudi, I., & Allmark, P. (2020). Indonesian migrant workers in Hong Kong: Smartphone culture and activism. *Masyarakat, Kebudayaan dan Politik*, 33(2), 122-133.

Wallis, C. (2008). Techno-mobility and translocal migration: Mobile phone use among female migrant workers in Beijing. In M. I. Srinivasan & V. V. Ramani (Eds.), *Gender Digital Divide* (pp. 196-216). Hyderabad, India: ICFAI University Press.

王遜（2014）「数字化的旅居者――在徳中国人新媒体使用与文化認同研究」

Yin, H. (2013). Chinese-language Cyberspace, homeland media and ethnic media: A contested space for being Chinese. *New Media & Society*, 17(4), 556-572.

張煥萍（2023）「社交媒体対少数族裔政治参与的影响 ――以微信対美国華人的政治参与為例」『青海民族研究』第34巻，第１期

Zhang, P. Y. (2013). Social inclusion or exclusion?: When Weibo (Microblogging) meets the "New Generation" of rural migrant workers. *Library Trends, 62*(1), 63-80.

中新社（2010）「中国人来日本当研修生発見被騙，連日媒都発声：這是現代奴隷制」https://baijiahao.baidu.com/s?id=1667757840788778800&wfr=spider&for=pc，2024年 1 月30日最終閲覧

（と　けん　慶應義塾大学大学院社会学研究科博士課程）